

子どもの発達や学びのプロセス

【言葉による伝え合い】



先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

5歳後半



伝える相手や状況に応じて、言葉の使い方や表現の仕方を変える。

相手に分かるように工夫しながら言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりして理解する。



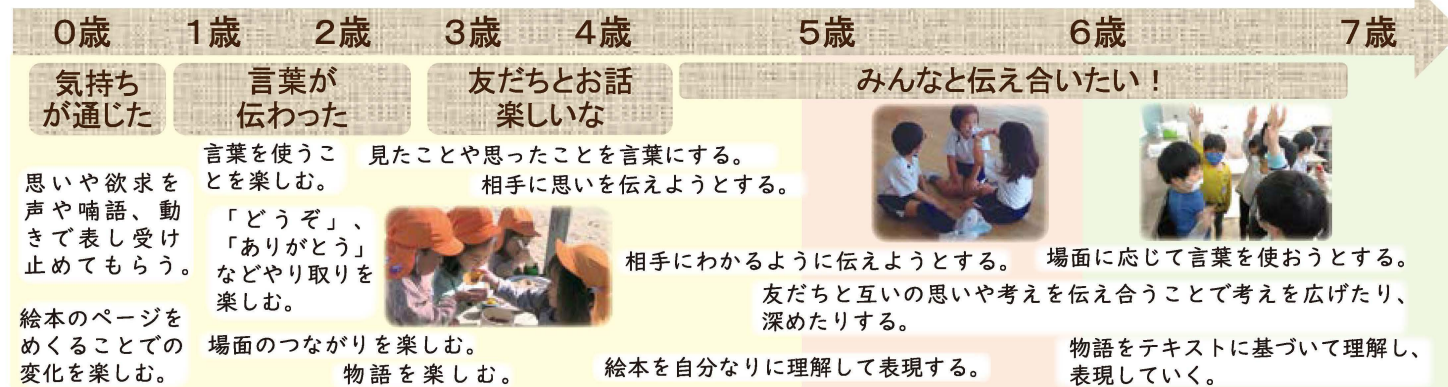
気軽に言葉を交わすことができる雰囲気の中で、伝えたいような体験をしたり、相手の考えなどを知りたいと思ったりする環境や支援を重ねます。

小学校教育



友だちと互いの思いや考えを伝え合うことで考えを広げたり、深めたりする。

目的や相手の状況などに応じた様々な伝え方や方法を学び、学んだことを活用する。



言葉による伝え合いは、身近な親しい人との関わりや、絵本や物語に親しむ中で、様々な言葉や表現を身に付け、自分が経験したことや考えたことなどを言葉で表現し、相手の話に興味をもって聞くことなどを通して育まれていきます。

【豊かな感性と表現】

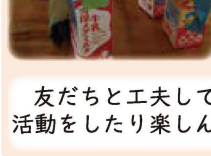


心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

5歳後半



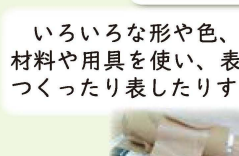
身近にある素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを必要なものを選んで表現する。



友だちと工夫して想像的な活動をしたり楽しんだりする。



小学校教育



いろいろな形や色、触った感じなどを捉え、材料や用具を使い、表し方を工夫して創造的につくりたり表したりする。



用具の使い方や発達段階に応じて学ぶ。



豊かな感性と表現は、様々な場面で美しいものや心を動かす出来事に触れてイメージを豊かにし、表現に関わる経験や楽しさを積み重ねながら育まれていきます。

「幼稚園教育要領解説」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」、「保育所保育指針解説」等 参照

4 幼保小接続を進めるための現在のフェーズ（段階）は？

幼保小接続を進めるための体制や取組における段階を、フェーズ1「基盤づくり」からフェーズ4「改善・発展」の四つのフェーズで示しています。

まずは、自園や自校が、現在、どのフェーズにあるのかについて、確認しましょう。現在の状況を把握することで、次のフェーズに向かうための手掛かりを得ることができます。校区の実態に応じ、行きつ戻りつしながら発展させていきましょう。

「架け橋期のカリキュラム」の改善・発展を目指しましょう！

フェーズ1 基盤づくり

幼児教育と小学校教育との接続の観点から、各校園で教育課程編成・指導計画を作成している。

NO→フェーズ1未満相当

YES→フェーズ1相当

フェーズ2 検討・開発

その「架け橋期のカリキュラム」は、園と小学校が検討・開発を行ったものである。

NO→フェーズ1相当

YES→フェーズ2相当

フェーズ3 実施・検証

園と小学校において、作成した「架け橋期のカリキュラム」を実施し、検証を行った。

NO→フェーズ2相当

YES→フェーズ3相当

フェーズ4 改善・発展

作成した「架け橋期のカリキュラム」を、園と小学校で毎年度見直しを行っている。

NO→フェーズ3相当

YES→フェーズ4相当

保育・授業の改善・発展に努めましょう！

合同会議が、小学校へ入学する児童の引き継ぎのみになっていませんか？



フェーズ1 基盤づくり

各園・小学校に連携の窓口がある。

NO→フェーズ1未満相当

YES→フェーズ1相当

フェーズ2 検討・開発

幼保小の合同会議を設置し、互いの保育・教育の内容や方法について共有している。

NO→フェーズ1相当

YES→フェーズ2相当

フェーズ3 実施・検証

幼保小の合同会議では、互いの保育・教育の内容や方法について理解を深めている。

NO→フェーズ2相当

YES→フェーズ3相当

フェーズ4 改善・発展

互いの保育・教育の内容や方法について理解したことをもとに、保育・授業の改善・発展に努めている。

NO→フェーズ3相当

YES→フェーズ4相当

「架け橋期」をつなぐ四つの「語る」が大切です

架け橋期のカリキュラムの編成・実施

カリキュラムの検証・改善を通じた保育・授業の質の向上

「架け橋期」の学びをつなぐために、「期待する子ども像を語る」、「実践を振り返り語る」、「参観した子どもの姿から語る」、「カリキュラムを語る」の四つの「語る」を大切にしながら取組を進めましょう。
子どもを中心に据え、人と人とのつながりを大切に、「架け橋期のカリキュラム」の検証・改善を通して、保育・授業の質の向上を目指していきましょう。



もっと知りたい！幼保小接続に関する参考資料



Point

「幼保小架け橋ガイドブック
『架け橋期のカリキュラムを作成しよう！』」によせて
福井大学教職大学院 准教授 岸野 麻衣 氏

「架け橋期」のカリキュラム開発というと、5歳児担任と1年生担任の仕事だと認識されることもあるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。

幼児期に培いたい資質・能力の三つの柱として、

- ・「知識及び技能の基礎」（豊かな体験を通じて、五感を通してたくさんを感じたり、さまざまなことに気付いたり、分かたり、できるようになったりすること）
 - ・「思考力、判断力、表現力等の基礎」（自分自身で試したり、工夫したりしながら、さまざまに考え、表現していくこと）
 - ・「学びに向かう力、人間性等」（心を動かし、やってみようと挑戦し、諦めずに粘り強くやり遂げ、よりよい生活を営もうとしていくこと）
- が、挙げられています。

幼児期に培われたこのような育ちを小学校以降により良くつないでいくことが「架け橋期のカリキュラム開発」です。「架け橋期」としては一般的に5歳児から1年生の2年間とされていますが、4歳までにおいても、子どもたちにこうした資質・能力を培っていくことは欠かせません。2年生以降においても、生きて働く知識及び技能、未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等を培っていくことが求められます。その意味で、「架け橋期のカリキュラム開発」をきっかけに、園・学校のすべての先生方で、今一度、保育・授業を問い直し、資質・能力の育成に向けて質を高めていくことが求められているといえます。そしてそれには、私たち大人もまた、施設類型や校種を越えて協働することで、より良い保育や授業に向かい、自らの心を動かし、粘り強く挑戦し、試し工夫しながら考え、さまざまな気づき、理解を深めていくことが求められます。

この冊子で示したカリキュラムの枠を所与の物として従属するのではなく、これを元にしなが自分たちで試行錯誤し、改良しながら、新たな価値を共に創造していくことができればと期待しています。

